

水と共に生きるには

奈良市立富雄第三中学校三年

平野 瑛介

私にとつての「水」は日常での生活では欠かせない存在です。なぜなら朝起きて、顔を洗うときや、トイレに行つて用を足すとき、衣服やくつを洗うときや、そうじをするとき、庭の植物に水をやるとき、一日の終わりに入浴するなどの日常においてさまざまな場面で必要不可欠な物です。それらの水は、すべて限りがある資源でもあります。日照りが続き、雨が降らない日が多くなると、やがて、その資源を使用することが困難になつてしまう可能性があります。そうならないようにするために私は、日常生活で使用する水をなるべくむだ使いをしないように、気を付けなければいけないと考えました。

一方、洪水や、地震による津波などでは水によつて命の危険にさらされることがあります。例えば、一瞬にして津波におそわれると車や家

や人が流されてしまいました。大雨によつては、山などの土砂災害であつというまに町がのみこまれてしまつたり、道路が斜断されて、交通がストップしてしまうことになります。自然災害などで、命を、失つてしまわないようにするためには、日頃からの訓練や、備えが必要になつてくると思います。私たちは、学校での避難訓練で、先生の話をしつかり聞き、速やかに行動し、自分勝手な判断や行動をしないようにしなければいけないと思ひました。

次に、備えについて考えました。その一つに、「水」です。火事などで大量の水が必要になります。私の家では風呂の水をすぐに、流さないで洗うときに水を抜いて洗っています。そうすることによつて、万が一、火事が来た時に火を消すことに使えたり、家のトイレの水が流れなくなつてしまつた時にも、使うことができるので、備えております。あと、飲み水に関して、何年間か保存が可能な、保存水を定期的にチェックしながら置いてあります。普段から防災

においては、先のことを考えて行動して周りの人に迷惑をかけないように、しなければならぬと思います。

今回、水について深く考えていく中で、私の住んでいる日本では、水道の蛇口をひねると当たり前のようにきれいな水が流れてきます。例えば、アフリカでは泥水のような濁った水だったり井戸を掘り水を探して水を掘り当てたりしなければ、水が使えない国もあります。それに、砂漠のように水が無い国もあります。そう言ったことを深く考えると、水道をひねると、当たり前のように出る水は限りある資源だということに改めて気づかされました。自分の生まれた日本が、その環境がとても恵まれているということなのです。そして、これからの生活において、私は、水のむだ使いをしないように意識して、水道をこまめに止めて流しっぱなしにしないように気を付けたいと思うことと、これから起こるかもしれない災害についても敏感に反応し、行動に気を付けると共に命を大切にし

なければいけないと考えました。今回考えたこれらのことを、これからも決して忘れずに大切に心に留め、これから自分よりも、後に生まれてくる人々にも、伝えていく責任があると強く思いました。